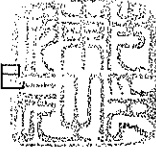




伊土 第 29 号
平成19年4月12日

国土交通省道路局長 様

伊東市長 佃 弘巳



今後の道路政策や道路の整備・管理について (回答)

このことについては、別紙のとおりです。

今後の道路政策や道路の整備・管理についての要望

1 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

当市は、市域の47%が「富士・箱根・伊豆国立公園」に指定され、豊かな自然と豊富な温泉、温暖な気候に加え、首都圏からも近い「国際観光温泉文化都市」ですが、伊豆東海岸唯一の「国道135号」は、行楽シーズンの渋滞だけでなく、災害時等には毎年のように通行止めになるなど、市民生活への悪影響はもとより観光のイメージダウンともなっています。

このため、「国道135号」の4車線化や幹線道路の整備促進と、更に、国土交通省が事業を進めている「東駿河湾環状道路」をはじめとする「伊豆縦貫自動車道路」の早期完成は、伊豆地域と東名及び第二東名高速道路とを連絡することになり、観光や物流の広域交通として、また、地域間の活発な交流や救急医療などの連携強化を推進し、活気ある一体的な地域づくりを行う上で重要であります。

2 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

モータリゼーションによる交通量の増大に対応した道路整備が始まって50年、既存道路の急速な老朽化が進む中、道路、橋梁など長寿命化に向け、効率的な維持修繕について国の支援が必要であります。

3 その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

当市は、前述のとおり「観光のまち伊東」ですが、国道をはじめ街道は海と山に囲まれた美しい景観を形成しています。

しかしながら、道路脇には雑木が繁茂し、この美しい景観を阻害するとともに、観光バスなどの交通の障害にもなっており、観光客やドライバーの方からも不評をいただいているところです。

このため、地域との連携を図る中で、防災も含め伐採などの対策が必要であると感じています。

また、昭和の香りを漂わせた、木造旅館「東海館」を中心とした地域を、地元協議会により、「くらしのみちゾーン」として、本年1月、国の登録を頂いたところです。

このことから、市民や観光客など歩行者優先の、快適な道路空間の形成を進めるために、今後、更なるご支援をお願いいたします。